

令和2年度 事業報告

公益社団法人 日本河川協会

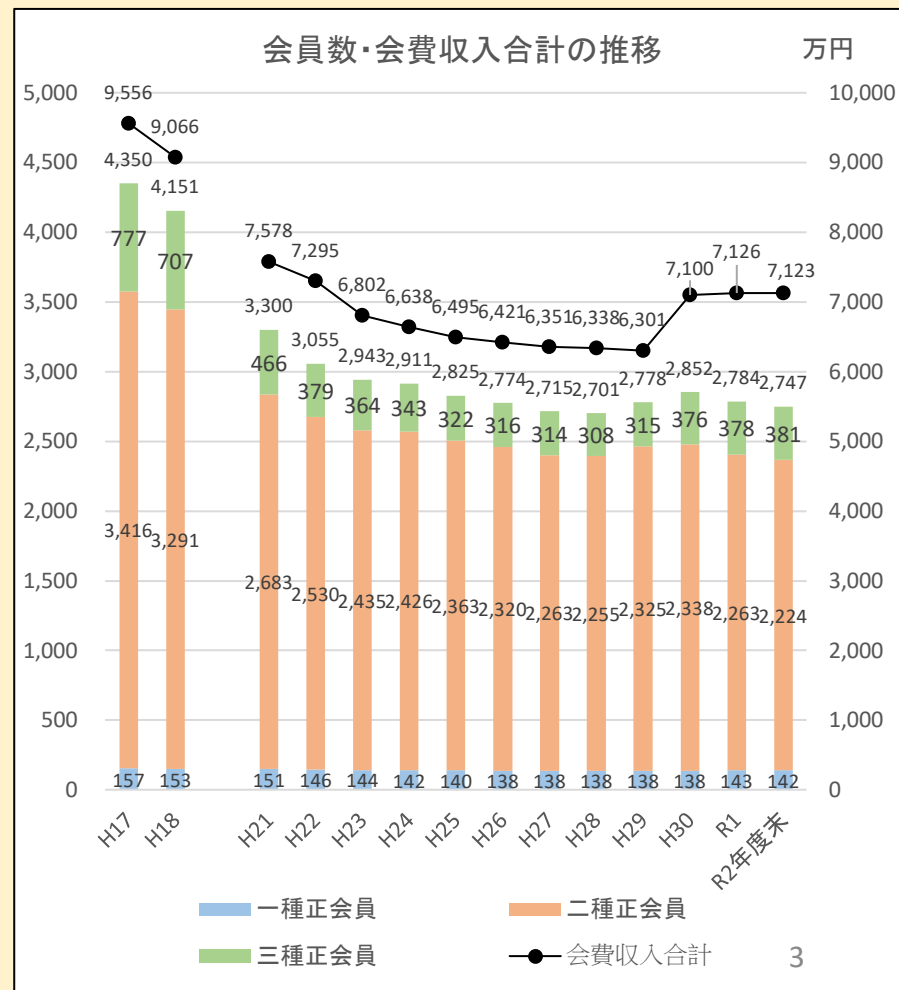
I 会員数と会員サービスの拡充

(注：番号は「事業計画書」に沿ったもの)

1. 会員数の推移

- ① R1年度に比較して総数は減少（△37）
- ② **二種正会員（個人会員）の減少が多くを占める（△39）**
- ③ 一種（自治体等）は微減（－1）、三種（企業・法人）は微増（＋3）

	R1 年度末	R2 年度末	増減
一種	143	142	△1
二種	2, 263	2, 224	△39
三種	378	381	＋3
合計	2, 784	2, 747	△37



2. 会員サービスの拡充

- ① **【全会員】 月刊誌「河川」 最新号までのネット購読サービスを開始**
(R2.6月～)
- ② **【全会員】 メールマガジンを毎週月曜日に配信開始**
(一週間の河川行政の動きと河川に関する情報を取りまとめ)
(R2.6月22日号～)

(参考) 最近の会員サービス拡充

- ① **【一種正会員】 月刊誌「河川」 のネット購読サービスを開始**
(R1.4月～)
- ② **【一種・二種正会員】 月刊誌「河川」 のネット購読版をカラー化**
(R1.10月号～)
- ③ **入会申込をネットのみで可能に** (R2.1月～)

Ⅱ 令和２年度実施事業 (主要なポイント)

(注：番号は「事業報告」に沿ったもの)

令和2年度の特徴

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、対面や移動を伴う多くの活動が中止、延期、縮小、見直し
- 特に、緊急事態宣言期間（R2.4.7.～5.25.，R3.1.8.～3.21）においては、協会の執務体制を含め様々な制約
- 新型コロナウイルス感染症を踏まえたニューノーマル、新しい働き方の下での協会の活動にチャレンジ

(1) 河川文化を語る会

- ・ R 2 年度は4回計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催できなかった

(3) 月刊誌「河川」の発刊

- ・ 最新号を含む電子版の無料購読をR2年6月から全会員に拡大

＜令和2年度 特集テーマ＞

- 4月号「令和2年度予算」
- 5月号「効果を実感できる土砂災害対策」
- 6月号「大河川の歴史(第12回)鳴瀬川・鶴見川」
- 7月号「気候変動を踏まえた海岸空間保全」
- 8月号「総力戦で挑む防災・減災プロジェクト～いのちと暮らしをまもる防災減災～」
- 9月号「気候変動を踏まえた今後の水災害対策について」
- 10月号「大河川の歴史(第13回)旭川・本明川」
- 11月号「今後の多自然川づくりが目指す姿」
- 12月号「受け手に伝わる防災情報発信に向けて」
- 1月号「大河川の歴史(第14回)十勝川・仁淀川」
- 2月号「令和2年の災害と風水害への事前の取組について」
- 3月号「水辺から変わるまち・人・未来！
～水辺発の新たなアクティビティから社会問題の解決まで～」

（４）河川に関する情報の収集・整理と広報資料の作成

- ・ 国土交通省からの受託による調査
- ・ 「水管理・国土保全局所管事業の効果」（国土交通省ＨＰ）の改良 等

（５）河川行政史に関する調査

- ・ H13年度からオーラルヒストリーを作成（個人の記憶を共有の記録に）
- ・ H30年度から「人」から「行政テーマ」に焦点を移行することを試行
- ・ 令和2年度は「ハッ場ダム（中止宣言～本体再発注）」（中間報告）をとりまとめ

<調査のポイント>

- ・ 令和元年度は、各機関（国土交通省、1都5県、国会等）に分散している多くの情報を収集・整理し、経緯をとりまとめ
- ・ 公表されている事実関係から「考察」等で背景を補完
- ・ 令和2年度は、事実関係等の確認を行い、中間報告を取りまとめ

(1) セミナーの開催

- ・ 「水防研修」 (中止) (R2.4.20~4.21)
- ・ 「河川管理研修」 (中止) (R2.10.8~10.9)
- ・ 「河川講習会」 (WEB講習会、441名参加) (H3.2.15~2.28)

「河川講習会」は、事前に収録した映像を受講者が都合の良い場所と時間帯で聴講するもの。

令和元年度からの新規事業である「**現場研修会**」についても、新型コロナウイルス感染症の状況により中止。(令和3年度に改めて実施)

(令和元年度は、「令和元年東日本台風」(台風19号)による被災のため中止)

1－4 河川に関する諸活動等を顕彰する事業

(1) 河川功労者表彰の実施

- ・ **令和2年は、個人56名と45団体を表彰**
- ・ これまでの累計表彰者数は4,037件
- ・ 表彰式は中止し、表彰状・副賞を伝達・送付した

分類(キーワード)	個人	団体	合計
①歴史・文化活動 等	0	2	2
②河川整備・管理関連の諸活動	29	2	31
③水防活動・人命救助 等	6	1	7
④河川の自然保護 等	2	38	40
⑤学術的研究・技術開発 等	17	0	17
⑥産業の振興・地域活性化 等	0	2	2
⑦国際的な活躍 等	0	0	0
⑧本会の発展への貢献 等	2	0	2
合 計	56	45	101

1-4 河川に関する諸活動等を顕彰する事業

(2) 日本水大賞・日本ストックホルム青少年水大賞

- ・第22回日本水大賞、2020日本ストックホルム青少年水大賞を表彰（令和2年6月）
- ・表彰式は中止し、表彰状・副賞を伝達・送付した

【第22回 日本水大賞 受賞者】

賞	都道府県	活動の名称	活動主体の名称
大 賞	茨城県	災害犠牲者ゼロを目指した水防災への取り組み	常総市根新田町内会
国土交通大臣賞	新潟県	地域住民と連携し地域の防災力を高める水防災教育の取組 ～学校中核とした地域防災教育の実践～	新潟県三条市立第四中学校
環 境 大 臣 賞	高知県	森川里海の人と自然の好循環がもたらす海の中の森づくり	特定非営利活動法人 黒潮実感センター
厚生労働大臣賞	東京都	水源地クリーンキャンペーン・エコクラブ探検隊	全国管工事業協同組合連合会 青年部協議会
農林水産大臣賞	埼玉県	ホッツケの里山自然環境の保全活動	特定非営利活動法人 宮代水と緑のネットワーク
文部科学大臣賞	愛知県	三河湾の環境調査	愛知県立時習館高等学校 SSH生物部
経済産業大臣賞	岐阜県	小水力発電による持続可能な社会の実現	有限会社 角野製作所 特定非営利活動法人 地域再生機構
市 民 活 動 賞	青森県	かけがえのない湧水群を次世代に引き継ぐための事業	十和田市名水保全対策協議会
国 際 貢 献 賞	福岡県	マレーシアで魚釣りを楽しむ —水資源保護・環境改善の取組み—	特定非営利活動法人 紫川を守る会
未 来 開 拓 賞	大阪府	水環境の新たな改善方法 ～アオコの抑制とヘドロの再利用方法～	清風高等学校 生物部
審査部会特別賞	東京都	荒川下流の柔らかなワンド整備と見直しによる維持運営	北区・子どもの水辺協議会

【2020 日本ストックホルム青少年水大賞 受賞者】

賞	都道府県	活動の名称	学校・クラブ名
大 賞	青森県	乾燥地の土壌流出抑制と食料増産を可能にする多機能集水技術の開発	青森県立名久井農業高等学校 Treasure Hunters
審査部会特別賞	岐阜県	ヒダサンショウウオの産卵行動の解明	鶯谷中学・高等学校 自然科学部

1-4 河川に関する諸活動等を顕彰する事業

(2) 日本水大賞・日本ストックホルム青少年水大賞

・第23回日本水大賞、2021日本ストックホルム青少年水大賞を決定（令和3年3月）

【第23回 日本水大賞 受賞者】

賞	都道府県	活動の名称	活動主体の名称
大賞	山口県	アグロフォレストリーによる水循環の再生と農村開発	特定非営利活動法人 シャンティ山口
国土交通大臣賞	福井県	上・下流住民の交流による地域連携型で自然と人間の共生を目指すドラゴンリバー交流会	特定非営利活動法人 ドラゴンリバー交流会
環境大臣賞	北海道	人工湿地の継続的な維持管理による温室効果ガスの削減と河川維持管理コストの低減	十勝川中流部市民協働会議
厚生労働大臣賞	兵庫県	千苅貯水池流域の水源環境保全の取組み	羽束川・波豆川流域水質保全協議会
農林水産大臣賞	福岡県	絶滅危惧種ニホンウナギのサンクチュアリづくりを通じた2つの地域創成 ～ニホンウナギの飼育から見えてきた森里海連環の重要性について～	福岡県立伝習館高等学校 自然科学部
文部科学大臣賞	愛知県	学校周辺の水域を生かした持続可能な教育活動の推進	豊田市立西広瀬小学校
経済産業大臣賞	広島県	セネガル無電化地域へのソーラーポンプシステムの導入	テラル株式会社
市民活動賞	和歌山県	孟子不動倉稲作水系復元・保全活動と、モニタリングを中心とした流域環境教育	特定非営利活動法人 自然回復を試みる会・ビオトープ孟子
国際貢献賞	滋賀県	琵琶湖モデルを活用したベトナムのハロン湾・カットバ島沿岸水域の水環境保全支援	滋賀県庁
未来開拓賞	福岡県	排水溝から油回収及び二次利用法の検討	北九州市立大学 国際環境工学部エネルギー循環化学科・環境生命工学科
審査部会特別賞	富山県	「月刊グッドラック」による松川を活かした“水の都・とやま”再生への挑戦	中村 孝一
審査部会特別賞	大分県	中津干潟の保全活動	特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会
タイムリー賞	福岡県	命を守る災害報道の実現を目指して～防災・減災に関わる関係機関の協働～	九州災害情報（報道）研究会

<特記事項>

- ・国際分野の活動が初めて大賞を受賞
- ・流域治水の取り組みに寄与する活動が国土交通大臣賞を受賞
- ・「水防災」分野の応募が件数、分野共に増え、複数の賞を受賞

【2021 日本ストックホルム青少年水大賞 受賞者】

賞	都道府県	活動の名称	学校・クラブ名
大賞	福島県	藻類を活用した福島の汚染水処理システムを考える～放射性物質の海洋放出から海を守るために～	学校法人福島成蹊学園 福島成蹊高等学校 チームSC
審査部会特別賞	高知県	地震時の副次的災害に伴う被害を考慮した避難経路の考察	土佐高等学校

1－5 河川に関する図書等の刊行等

(1) 図書の出版等

- ・ 「2020河川ハンドブック」
- ・ 「令和2年度版 河川事業関係例規集」(DVD版(PDF)も刊行)

1－6 会員活動への助成、会員への情報誌の配布、河川関係諸団体への活動助成等

(1) 会員活動への助成

- ・ 二種会員を中心に設立されている7団体に運営経費の一部を助成
- ・ 二種会員による川をテーマとした調査・研究活動経費の一部を助成

(4) 会員へのメールマガジンの送付

- ・ R2年6月22日より、週1回、アドレスを登録いただいた会員に配信
- ・ 最新の河川行政の動きと河川に関する情報がわかることを目指して編集

令和2年度決算について

公益社団法人 日本河川協会

令和 2 年度決算の概要

(ポイント)

- ・ H29年度後半から経営改善努力を継続中（収入増加、支出削減）
- ・ **R 2年度決算は、691万円の収支プラス（プラスは3年連続 → 経営安定化へ）**
- ・ 新型コロナウイルス感染症への対応により多くの活動が影響を受けた。
経営努力と新たな取り組みにより影響を緩和

(単位：円)

区分	R1決算	①R2予算	②R2決算	R2予算との差 (②－①)
収入 (A)	208,396,165	212,145,000	188,886,710	△23,258,290 (△11.0%)
支出 (B)	205,065,872	212,145,000	181,977,219	△30,167,781 (△14.2%)
収支 (A-B)	+3,330,293	0	+6,909,491	

(下段数値は①との比)